

令和6年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

●R6年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	数値	現状の単位	目標値	実績の年次値	本年度の年次値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)	目標等の公表先
斑鳩町	②学校と地域の課題	学校支援ボランティアの確保・育成	小中学校では、学校の環境整備など地域のボランティアの方に参加していただいているもの、学校・地域・行政の橋渡し役であるコーディネーター(行政職員や教員が担っている場合を除く)がない。	R5年度では、斑鳩小学校と斑鳩南中学校において、R6年度での学校運営協議会運用開始に向けた準備をすすめ、R6年度から運用を開始している。同時に、学校・地域・行政間の円滑なコミュニケーションのためには、コーディネーターの存在が必要不可欠と考えており、これまでの学校・地域間の関係や地域人材の現状整理を行ったが、発掘に難航している状況である。	R7年度から、全小中学校(R6年度導入校を含む)への学校運営協議会導入に向け、地域のボランティアの方によるコーディネーターを、各小中学校に1名ずつ(計5名)配置する。また、先進地のCS職員やコーディネーターを講師として招き、学校・地域・行政職員を対象に研修会を実施し、人材育成を図る。	教員の業務負担軽減、学校運営を担ううえでの地域の方の当事者意識の向上	コーディネーター配置人数	0	人	5	0	2	R6年度から、斑鳩小学校と斑鳩南中学校において学校運営協議会を設置し、学校運営に関することや、学校と地域の関わりについて協議されているところである。学校運営協議会の中では、学校・地域・行政間の円滑なコミュニケーションのためには、コーディネーターの存在が必要不可欠という認識はあり、地域の中心的役割を担う人材は存在するものの、地域の方の家庭等の都合もあり、コーディネーターを配置することができなかった。	<a href="https://www.town.ikaruga.nara.jp/0000002783.html">https://www.town.ikaruga.nara.jp/0000002783.html</a>